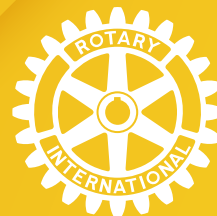


# CLUB NEWS

WEEKLY  
REPORT  
YAMAGATA  
CENTRAL



vol.  
**1391**

2024・2025  
MEETING

国際ロータリー第2800地区 第5ブロック  
**山形中央ロータリークラブ**

**原点回帰**  
～ロータリーを楽しもう～

〒990-0039 山形市香澄町2-9-21 (株)メコム気付 事務所携帯TEL 090-1445-4120 FAX (023) 642-1618

**例会** 毎週火曜日12:30～13:30 (但し第5週は18:30～)

**会場** ホテルメトロポリタン山形

■会 長 長谷川 淳  
■会長エレクト 本間 雅之  
■副 会 長 相川 博昭  
■直前会長 玉ノ井 憲史  
■クラブ管理運営 丹野 秀樹

■職業奉仕 小泉 俊哉  
■社会奉仕 斎藤 真  
■青少年奉仕 青柳 紀子  
■国際奉仕 佐藤 太  
■幹 事 柴田 修英

■副 幹 事 鈴木 陽子  
■会 計 石山 徳昭  
■S A 川合 勝芳

国際ロータリー会長 坂本 徹  
第2800地区ガバナー 芳賀 康雄 (白 鷹)  
第5ブロックガバナー補佐 長橋 正人 (山形中央)



**ロータリーの  
マジック**

◆日時／2025.5.27 18:00 ◆例会場／フォーラム山形

## 会長挨拶

映画例会ということで、私これまで2回は覚えております。一回目は原作さだまささんの「風に立つライオン」で内容は忘れてしまったのですが、感動的な良い映画だった記憶があります。二回目は「家族になろうよ」という作品で

コメディ映画の笑いありの楽しい作品だった思い出があります。本日の映画は誰もが知る世界的大ヒット作品の「ミッションインポッシブル」です。今日はハラハラドキドキの映画かと思います。長時間になりますが最後まで楽しみましょう。

## 映画鑑賞例会 ミッションインポッシブル ファイナル・レコニング



### 本日出席・修正出席

|                  | 会員総数 | 出席義務出席数 | 出席会員数 | 出席率 |
|------------------|------|---------|-------|-----|
| 本日出席             | 34名  | —       | 12名   | —   |
| 修正出席             |      |         |       |     |
| 他クラブでメイクアップされた会員 |      |         |       |     |

## 映画『ミッション：インポッシブル／デッドレコニング PART TWO』の概要

あらすじ(※前作『デッドレコニング PART ONE』からの続きとなります)



前作『ミッション：インポッシブル／デッドレコニング PART ONE』では、人類の未来を脅かす恐ろしいAI「エンティティ」の登場が描かれました。自我を持ち、世界中のネットワークを支配しようとするこのAIを巡り、イーサン・ハントは「エンティティ」を完全に制御するための鍵を追うことになります。しかし、その鍵は2つに分かれており、イーサンはそれぞれの鍵の片方を巡る激しい争奪戦に巻き込まれていきます。そして、イーサンの過去に深く関わる謎の男ガブリエルや、新たなキャラクターたちとの複雑な人間関係が絡み合い、物語は予想外の展開を見せます。

『デッドレコニング PART TWO』(＝ファイナル・レコニング)では、その前作のラストでイーサンが手にした「鍵」が導く運命が描かれます。「エンティティ」の完全な掌握を防ぐため、そして世界を救うために、イーサンと彼のIMFチームは、これまでで最も危険で個人的なミッションに挑むことになります。彼の過去、仲間たちの命、そして世界全体の運命がこの「最終章」でどのように決着するのかが焦点となります。

### 作品の主な特徴

- トム・クルーズによる究極のスタント:

シリーズの象徴ともいえる、トム・クルーズ自身が敢行する命がけのスタントがさらにエスカレート。予告編でもバイクで崖から飛び降りるような度肝を抜くアクションが話題となりました。

- シリーズの集大成

これまでのシリーズの要素が随所に散りばめられ、イーサン・ハントというキャラクターの集大成としての物語が描かれることが示唆されています。

- 巨大な脅威「エンティティ」

AIという現代的なテーマを扱い、従来の人間同士の戦いとは異なる、より根源的な脅威にイーサンが立ち向かいます。

この作品は、単なるアクション映画を超え、トム・クルーズの俳優としての、そして映画人としての「不可能」への飽くなき挑戦を描いた、まさに\*\*「映画体験」\*\*としての価値が高い作品である。

この作品は、やはり「ミッション：インポッシブル」シリーズの集大成としての期待に応える、**壮絶なアクションと、トム・クルーズの飽くなき挑戦**が最大の魅力として挙げられているようです。

### 主な感想

- 息をのむアクションシーン

トム・クルーズが命を懸けていることが伝わる、迫力満点かつスリル満点のアクションの数々に圧倒される。特に、沈没した潜水艦内でのアクションや、飛行機を使ったスタントなどは、シリーズ中でも屈指の出来栄え。

- 「映画館で観るべき作品」

大画面で観ることで、そのスケールと臨場感が最大限に味わえる、まさに映画体験としての価値が高い作品だ。

- 集大成としての完成度

シリーズの過去作へのオマージュや、これまでのイーサンの軌跡を感じさせる演出が、ファンにとっては胸熱な展開となっている。

- トム・クルーズのプロ意識

限界に挑み続けるトム・クルーズの真面目さと、作品への追求心には、敬意を表します。